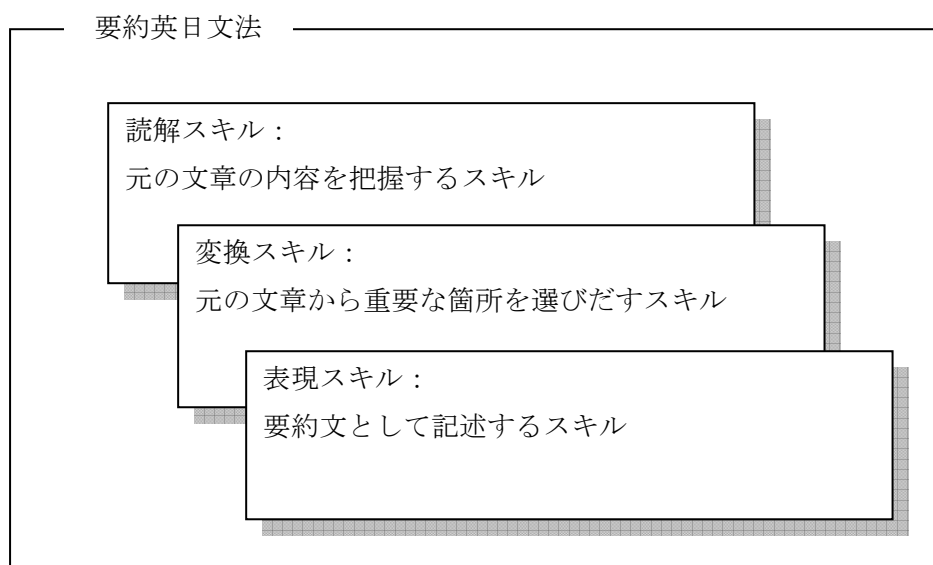


## 要約英日文法のルール

要約文はおおまかに「元の文章を読んで把握する」→「要約文に取り入れる内容を決める」→「要約文として書き表す」というプロセスを経て作成される。これから解説する「要約英日文法」とは、この流れに従って組み立てられた、要約文作成の指針である。

まず、要約英日文法は次に示すように3つのスキルから構成される。



[読解スキル]とは、

元となる文書を読み、文章構造、および文章中に述べている内容を把握するスキルのこと。

[変換スキル]とは、

文章構造や文中の重要箇所を見つけ、要約文に取り入れる要素を抜き出すスキルのこと。抜き出しの際には、各要素の重要性と同時に、要約文仕上がり時の分量（要約文の長さ）なども考慮する。

[表現スキル]とは、

ここまで抜き出した重要箇所を元に、実際に要約文として整った文章を記述するスキルのこと。適切な表現方法の選択など、主として、最終的に要約文を仕上げるためのプロセスにかかわる。

3つのスキルは、それぞれ独立している訳ではなく、相互に深く関連する。これらのスキルの内容を具体化して述べたものが、要約英日文法の12のルール（【ルール1】～【ルール12】）である。

では、おおむね要約文作成の手順に沿ってルールを列挙する。

### 【ルール 1】 文章に付随する情報を知る

文章に付随する情報がある場合には、まずはそれらに目を通す。たとえば書籍の場合であれば、前書きや後書きや目次といった本文以外の情報から、文章執筆のねらいや背景、文章全体の流れなどを把握する。

### 【ルール 2】 タイトル（サブタイトル）に注目する

タイトルやサブタイトルには、キーとなるワードやフレーズが含まれている可能性が高い。本文を詳しく読む前に、タイトルやサブタイトルを手掛かりにして、その文章で言いたいことや文章全体の流れなどを把握する。

### 【ルール 3】 全体構成を把握する

文章全体の構成を理解する。章やパラグラフなどの単位でとらえ、章どうし、あるいはパラグラフどうしの関係から、全体の論理の流れを掴む。

### 【ルール 4】 章やパラグラフ内を把握する

それぞれの章やパラグラフのなかで述べられている内容を把握する。章やパラグラフ内での位置を手掛かりに、重要だと思われるセンテンスやワード、フレーズを読み取る。このとき、一つの章やパラグラフ内では、先頭や末尾に重要な情報が置かれていることが多いことに注意すると良い。

### 【ルール 5】 手掛かりとなるワード（フレーズ）を見つける

たとえば、接続詞などに注目すると、その接続詞によってつながれているセンテンスの関係が分かる。「たとえば」があれば「例示」、「in other words」があれば「言い換え」を示すであろうと考えられる。このように、センテンスとセンテンスを結ぶワード（フレー

ズ)を手掛かりとして、論理展開を掴んだり、センテンスの重要度を判断したりする。

### 【ルール 6】 同義の表現の繰り返しに注目する

同じ意味のワード、あるいはフレーズが繰り返されていることがある。その場合、それらの指す内容が、文章でもっとも言いたいことや重要な内容に関係すると考えられる。

### 【ルール 7】 同一表現の繰り返しに注目する

まったく同じワード、あるいはフレーズが繰り返されている場合、その文章にとって重要なものである可能性は高いといえる。

### 【ルール 8】 要約率を考慮する

重要箇所を選び出す際に、要約率（※）を考慮しながら、重要度が高いと判断できるものから優先して選択する。

※要約率とは…

原文に対し要約文がどのくらいの長さであるかを表す指標。日本語の文章に対して

$$\text{要約率} = (\text{要約文の文字数} / \text{原文の文字数}) \times 100 \quad (\%)$$

とする。

英語の文章から日本語の要約文を作成する（あるいはその逆の）場合、英語のワード数を 2.5 倍したものを日本語の文字数として算出する。

つまり、要約率が高ければ、要約文で言及する内容として選びだす箇所が多くなる。逆に要約率が低ければ、より重要な内容（たとえば、繰り返しの頻度がより高いもの）などを、優先して選ぶ。

### 【ルール 9】 読み手に合わせた表現を用いる

要約文の読み手のレベルや期待、あるいは要約文の用途に応じた表現を採用する。

**【ルール 10】 表現を単純化しすぎない**

極度に単純すぎるセンテンスの羅列にしないこと。前後のつながりなどを考えて、適切な表現を追加・変更・削除する。

**【ルール 11】 重複する表現を避ける**

同じ内容を示す表現の重複を避ける。元の文章で重要な意味を持つ部分は、要約文においてももちろん大事だが、要約文においては、過度に強調したり同じ内容を繰り返し述べたりするのは避ける。

**【ルール 12】 簡潔な表現を用いる**

要約文では、元の文章の重要部分を短時間で正確に把握できなくてはならない。そのため、できるだけ簡潔に述べること。煩雑な表現を用いて文章の趣旨が伝わらなくなったり、理解しにくくなったりするのを避ける。